ドンデン高原まつり

～春の訪れ、ドンデン高原に行きませんか～

ドンデン高原開き

4月17日(日)から5月29日(日)までの毎週日曜日、ドンデン高原まつりが開催されます。

期間中は、3月号の「市報さどお知らせ版」でご案内したとおり、楽しいイベントが盛りだくさんとなっています。ぜひこの機会に山野草教室やアウトドアクッキングやトレッキング(山歩き)などを通して、自然と触れ合いながら時間を忘れてゆっくりとした1日を過ごしてみませんか。

4月16日～5月29日までの土・日およびゴールデンウイーク期間中には予約制のプレミアムバスが運行していますので、交通手段も大変便利になっています。

なお各イベントの詳細につきましてはドンデン山荘のホームページ(http://www.ryotsu.sado.jp/donden/)でも紹介されていますのでご覧ください。

また、申込みが必要なものや定員が決まっているものもありますので、早めにお申込みください。

◆問い合わせ・申込み先

両津観光協会

☎23―3300　または

市役所両津支所　地域振興課

☎27―2115

アウトドア・クッキング

ドンデン・トレッキング

椿集落(両津)パソコンクラブ

椿集落は、花いっぱい運動や、椿川の清掃等で地域おこし活動に力を入れきた地域です。2年ほど前から、ITを使って村おこしができないかと、集落のパソコン好きの仲間が集まり、クラブを立ち上げました。

女性3人を含む30歳代から70歳代までの約20人のメンバーで構成され、毎月1回、夜7時位から集会場に集まり、和気あいあいした雰囲気の中で活動しています。

当初はワード文書の作成やデジカメからの画像の取り込み、また、それぞれ疑問点を持ち寄って教え合ったりしていましたが、最近では、年賀状や集落の議案書の作成、Eメール、ウィルス対策など一歩進んだいろいろな課題に取り組んでいます。

クラブに参加している70歳代の男性は、「若い人とのコミュニケーションが図れるようになり、大変プラスになった。パソコンを通して親睦が深まりよかった」と話してくれました。ひととおり勉強が終わった後は楽しい懇親会。それもまた楽しみの1つとのこと。

代表の竹田輝雄さんは、「将来は、集落のホームページを立ち上げて、地域と都市との交流を図りたい。少しでも村おこしに貢献できれば」と意気込んでいました。

改正育児・介護休業法が施行されました!

次世代育成支援を進めていく上でも大きな課題となっている育児や介護を行う労働者の仕事と家庭の両立をより一層推進するために、育児・介護休業法が改正され、本年4月1日から施行されました。

事業主の皆様には、就業規則を改正法に沿った内容に見直ししていただく必要があります。

改正育児・介護休業法のポイント(平成17年4月1日施行)

1　育児休業及び介護休業の対象労働者の拡大

一定の範囲の期間雇用者は、育児休業・介護休業ができます。(現行　期間雇用者は対象外)

2　育児休業期間の延長

子が1歳を超えても休業が必要と認められる一定の場合には、子が1歳6か月に達するまで育児休業ができます。

3　介護休業の取得回数制限の緩和

対象家族1人につき、常時介護を必要とする状態に至るごとに1回の介護休業ができます。期間は通算して(延べ)93日まで

4　子の看護休暇の創設

小学校就学前の子を養育する労働者は、1年に5日まで、病気・けがをした子の看護のために、休暇を取得できます。

問い合わせ先:新潟労働局雇用均等室　TEL 025―234―5928　FAX 025―265―6420

健康づくり教室「元気いきいき塾」

受講生を募集します

あなたの健康の秘けつは何ですか?

あなたや家族、そして地域が元気になるための、健康づくり教室を開催します。6月から2月までの間に10回の開催を予定しています。

◆募集期間　5月13日(金)

興味のある人は、下記まで申し込んでください。

(詳しい日程・申込書を差し上げます)

市役所環境保健課

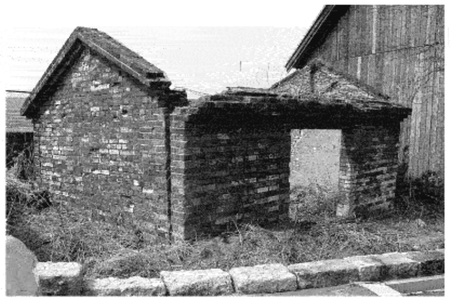
健康増進係(☎63-3113)

各支所福祉保健課または市民課

佐渡金銀山 未来に残そう 世界遺産

金銀山よもやまばなし(7)

大間港倉庫(2)



相川の大間港入り口西側に残る倉庫はレンガ造り平屋建て切妻屋根で、外壁は化粧レンガ積みを表し、屋根は現存していないため不明です。北側の妻壁に小屋組みの木造キングポストトラスが残存しています。現状では破損が著しく、部材の多くは損失されており、残存するのは躯体(くたい)レンガと一部の小屋組みのみです。

当建物の建築年代は明らかではありませんが、出入口の上にある横梁(よこはり)が押し迫っている状態になっているため、明治時代後期と考えられます。

一方、内部壁面のモルタルと軒先のモルタルは一連で仕上げられており、当初から施されていたものと考えられます。明治時代、国内におけるポルトランド・セメントの生産は、技術の進歩と海外へ輸出するほどの生産量の増大を見せていましたが、大正時代末期～昭和時代初期には、レンガの単価やレンガ職人の日当に比べて、セメント1樽の価格が非常に高く、レンガ造り建築を工事するのにセメントが充分に使用されたとは言えない状況も存在していました。つまり、当建物は明治時代後期～大正時代中期ころまでに建築されたものと考えられます。

梁間(はりまそとのり)外法4・23m、桁行(けたゆき)外法5・97m、レンガ造り平屋建て切妻造り妻入りの建物です。建物の西側から南側にかけて大間港から続く護岸が存在し、建物はこの護岸に沿って、東を正面として立地しています。外壁はレンガで、イギリス積みで構成されています。妻面はペディメント(切妻屋根の妻壁にできる三角形の部分)までをレンガ壁としています。軒はレンガによる蛇腹(じゃばら)状の持送りを三段設けています。使用されるレンガの基本寸法は、長辺8寸2分～8寸3分、短辺3寸9分～4寸、厚さ2寸1分～2寸2分、表面の目地寸法は8～10㎜となっています。なお、外壁のレンガ目地には白色の部分が見られるため漆喰(しっくい)目地と考えられます。躯体レンガ壁の厚さはレンガ1枚壁で、長辺1枚あるいは短辺2枚+目地分(約252㎜)となっています。

屋根や躯体レンガの崩落によって保存状態が決して良いものであるとは言えない状況です。しかし、鉱山施設として明治時代～大正時代を代表するレンガ造り建物が残存している点だけでも貴重なものとしてとらえ、大間港の構造物や他のレンガ倉庫と共に保存していくことで、近代化遺産として一連の価値を高めることができる点においては、保存・活用していきたいと考えます。崩落したトラスの一部等も建物内に残されていますが、雨ざらしの状況です。状態悪化を招く前の早急な保存対策が望まれる建造物です。

佐渡金銀山室☎74-3115

DVDの贈呈!

佐渡金銀山の世界文化遺産登録運動に協力しようと、相川小学校では、佐渡金銀山の史跡「相川7つの宝」について学習してきました。このたび、子どもたちが調べた成果を、「輝け!世界の宝 佐渡金銀山」という歌にしてDVDに収録しました。3月16日(水)に、相川小学校6年生22人が、DVDを市長に贈呈し、歌の披露をしました。DVDには、子どもたちの歌声に合わせて「道遊の割戸」などの映像が納められています。

子どもたちから、「佐渡金銀山の世界文化遺産に登録できるようにぜひお願いします。」とあいさつを受け、市長は、「県と協力して、世界文化遺産登録に向けて頑張ります。」と、子どもたちに誓いました。